

ワーコレの生活支援サービスを広げよう



今年度発足!

2014年度方針の最重要課題であるインフォーマルサービス事業の創設に向け、少しずつ動き始めています。生活クラブ虹の街のエッコロ制度の日常生活ケア保障とネットワーク型共助の仕組みも始まり、今後地域を主体としてW. Coの仲間を増やしていきます。

地域・福祉部会から

地域で見守るお互いのたすけあい

W.Coは「住み慣れた地域で安心して暮らし続けたい!」。その願いを叶えるために、何が大事か、何ができるかを、生活者の目線で、知恵を出し合いながら、地域福祉を作り上げていきます。私たちが必要とするサービスを私たちの手で作る、主人公は利用者です。利用者の自己決定を促し尊重するケアを心がけ、自立的な生活を営むために、必要不可欠で過不足のないケアを提供するW.Coの助け合いを広げていきます。

地域福祉部会担当理事 高野優美子

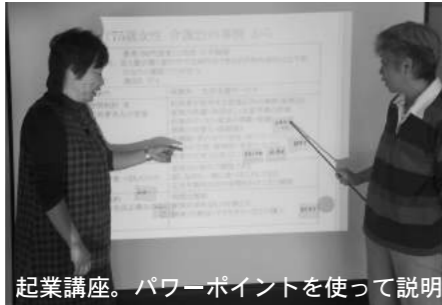
W. Co起業講座「起業で街を元気に!」報告

地域で人が繋がる事業を創る

生活支援事業創設に向けて、3回(7/7、8/4、9/8)の連続起業講座を開催しました。

既存の事業所の新たな事業展開も推進していることから、現在W.Coとして働くメンバーも参加しました。

設立支援部 風間由加



起業講座。パワーポイントを使って説明

7/7 (月)	起業で街を元気に W. Coの街づくり	生活クラブ運動とワーコレの役割 人を繋げて地域力・民間力を育てる
	地域の拠点 W. Coの居場所づくり	住み慣れた地域で暮らし続けるために 地域の縁側・居場所づくりとコミュニティビジネス
8/4 (月)	W. Coのたすけあい事業①	生活者の目線と 必要から生まれるお互いさまの街づくり
	W. Coのたすけあい事業②	実践例に学ぶ、ワーコレのケア ワークショップ
9/8 (月)	W. Coの組織づくり	共に働き、共に生きる 一人じゃない仲間がいるからできこともある
	W. Coの事業連携	多種多様なインフォーマルサービス事業 地域の拠点としての虹の街デポ・配送ワーカーズ・ワーコレ各店舗

生活支援事業って何?まずは講座に参加しよう!

生活クラブ虹の街のエッコロ制度の日常生活ケア保障とネットワーク型共助の仕組みが始まっています。

エコロの日常生活支援サービスは、子どもから高齢者までを対象とする日常の「お困りごと」(掃除・洗濯・調理・買物代行・通院介助・産前産後のお手伝い・一時預かりなど)が想定されています。

生活クラブ千葉グループでは、10年程前から暮らしの中の「困った」を地域で支えあう仕組みを生活クラブ版星数PJ(小学校区単位で星の数ほど有償家事支援サービスを創設する)や生活クラブ版地域福祉活動計画で協議してきました。そこには「私の必要」を「私たちの必要」に換えて、地域に私的自治を生み出してきた生活クラブが地域福祉の分野でも責任を引き受け、持続可能な協同組合の街づくりを確かなものにしていこうとする覚悟が読み取れます。

W.Coも「その人に寄り添い」「声を聴き」「自立の助けになるように」「何ができるか一緒に考え」「ネットワークを繋ぎ」生活支援サービスをコミュニティワーク、ディーセントワーク*として実践してきました。高齢化・格差貧困化が進み、家族や地域の関係性が希薄となり、「お困りごと」「生きにくさ」が益々増えている中で、多様な生活支援(居場所・学習塾・学童保育・コミュニティカフェなど)の必要性が高まっています。これらを事業として起こし「働く場」と「働く人=仲間」を増やし、住みやすい街づくりに繋げて事業連携していくことが、私たちの次のステップとなります。

W.Coの優位性と強みを自覚して、私たちにできることを考える生活支援起業講座を開催します。家事支援だけではない様々な生活支援事業の展開に向けて、まずは講座に参加しましょう!

理事長 北田恵子

生活支援サービス担い手養成講座		
第1回	コミュニティワークとしての生活支援サービス	生活クラブ運動と地域のお互いさまのたすけあいとエコロ制度
第2回	事例に学ぶ お互いさまのたすけあい	制度(介護保険サービス)との違いと連携「一人の人を地域で支える」ということ
第3回	認知症を知る	体験者の話を通じてサービスの在り方を考える
第4回	ケアの心得とワークショップ	「聞か力」「繋ぐ力」「暮らしを支えるという視点」
第5回	プラス1 研修	3A or アロマハンドトリートメント ワークショップ

起業講座に参加して

■ これからの働き方

福祉関係のことは他人事のように思っていないながら受講しました。介護の仕事は肉体的にも精神的にも大変なことです。考え方を考えるだけで心が楽になれることを知りました。

実際にW.Co菜の花が今後、新松戸で地域のニーズに応え、継続した地域の一員であり続けることを考える機会となりました。介護食が必要とされる今、ソフト食(※)について検討することなど、食のワーカーズの事業について話し合っていくことが大切だと思いました。

W. Co菜の花 西脇園美

※介護食でありながら「きざみ食」「ミキサー食」とは違い、軟らかいけれど、しっかり食べ物の形がある、見た目のきちんとした食欲が出る食べ物。

■ 小さな一歩を踏み出したい

今回の講座に参加し、最初に思ったことは「私にもできるかもしれない」。

ヘルパーの資格を持って働いた経験から、当時のことが思い出され、「また、何らかのかたちで携われたらいいな」と思いました。

今は週に5日お弁当や惣菜を作る仕事をしています。ですので新しい仕事を始めることに職場の同意を求めることは難しいことだと思いましたが、それでも小さな一歩を踏み出したと思っています。

W. Co菜の花 田中和代

■ 次の事業に活かす!

現在、紙ふうせんでは遺品整理・生前整理などを請負い、その品物の買取や処分なども行っています。今回の講座で、介護の実態を知り、また生活支援現場のロールプレイングを通して、今後ますます需要が増えていくことを実感しました。紙ふうせんが事業としてのお弁当作りと宅配を通して、生活支援事業に繋がるように、地域に向けてアンテナをはっていきたくと思っています。

W. Co紙ふうせん 鈴木とし子

ワーカーズと共にエコロを地域の資源に!

今年7月生活クラブ虹の街はエコロ制度を改正、組合員の日常生活での困りごとをケアする保障を新設しました。高齢化しても地域で暮らし続けられるように、孤立せず育てられるようにとの思いからです。そして10月には、ケア者が見つけれない依頼者のために、W.Co千葉県連合会とVA-IC-CCIの生活支援サービス事業と委託契約の上、虹の街が窓口となるケアコーディネートを始めました。虹の街の各ブロックでは、ワーカーズメンバーにも参加いただき協議会を設置。制度改正を知らせ、利用を呼びかけるとともに、ケア者を増やすことで利用増に対応、ゆくゆくはグループによる生活支援サービス事業が地域全体の資源となっていくことをめざします。

虹の街は今後、高齢化や孤立・貧困といった社会状況に対応した取り組みを積極的に進めていきます。それが組合員をはじめ地域の人々が安心して暮らしていくために必要だからです。ケアに興味のある人に声をかけること、既存の事業所が生活支援サービス事業への取り組みを検討することなどを通じて、ワーカーズの皆さんと共に、これがあってよかったと言われる資源をぜひ一緒に作っていきましょう。

生活クラブ虹の街副理事長 岩上章子



生前整理と遺品整理事業に向けて

7月10日、生活クラブ虹の街主催のキーパーズ(前代表取締役吉田太一氏の講演を拝聴しました。私自身も、父が亡くなり、空き家になった実家がすぐに廃屋の様相を呈しています。全国的にもこのような家が増加していることを実感します。

W.Co回転木馬の遺品整理の要請も、お客様、不動産業者、伝え聞いて、と増えています。リサイクル品の販売だけではなく、これから必要とされる事業だと感じます。処分業者・不動産屋と連携して広げていきたいと思っています。

回転木馬 谷古宇淳子

地域の居場所になりたい ~W. Co風車の夢~

障がいのあるメンバーにとっては親なき後の生活の不安は常につきまとう。施設に入らず、地域で暮らし続けたいという願いを叶えるために、風車のみんなで協力して暮らせるグループホームのようなものを将来的には作りたくと思っています。

近い将来は何といっても仕事を増やして、時給アップ! 地域の人にも開かれたコミュニティカフェを作り、孤立しがちな地域のお年寄りや子育て中のお母さん、気軽に立ち寄れる場所にする。

カフェでの接客や食器洗いは、リユース食器の仕事が少ない時のメンバーの仕事になる。リユース食器の普及と同時に、障がいや引きこもりに対する理解を深めるためにも、地域の人ともっと交流したいと思っています。

風車 中村早和子